



技術史教育

第113号

2018.1.31

Education for History of Technology

第113号 目次

日本技術史教育学会2017年度全国大会(盛岡)開催報告……………小野寺 英輝(1)
全国大会(盛岡)見学会報告……………天野 武弘(2)
日本技術史教育学会関西支部2017年度総会・研究発表講演会案内…………渡部 紘一(3)
お知らせ・理事会議事録・編集後記……………(4)

【全国大会報告】

日本技術史教育学会 2017年度全国大会(盛岡)開催報告

2017年度全国大会実行委員会

実行委員長 小野寺英輝(岩手大)

日本技術史教育学会の2017年度全国大会・研究発表会は2017年12月9日、昭和2(1927)年に建設された、国の登録有形文化財、岩手県公会堂の技術史を体現した会議室を会場に開催され、総計22人の方々にご参加いただきました。特別公演には盛岡市の西隣雫石町立地する、国内最大クラスの民間農場である小岩井農場の資料館館長、野沢裕美氏をお招きし、「小岩井農場の歴史と遺産」と題した講演をしていただきました。現在の牧場の地域の不毛を見た、小野義真、岩崎弥之助、井上勝の3人が創始し、その頭文字をとって名づけられた小岩井農場は、その地域はもとより、日本全国に種馬、種牛を供給し、牧畜の機械化でも先進的な取り組みをしていたことが紹介されました。

なお、野沢館長は他の発表内容にもとても関心を寄せられ、会の終了まで継続して在席しておられたほか、懇親会にも参加くださいました。

一般研究発表講演会では、15件の研究発表がおこなわれ、いずれの講演においても真剣な質疑応答がなされ、参加者一同にとって(支援の学生たちからも、普段聞かない分野だけにとっても興味深かったとの言葉が聞こえてきております)有意義な研究発表会となりました。

発表は以下の通りでした。まず午前のセッションでは、「久保田豊と水豊ダム報道」(武長玄次郎会員)と題する台湾史関係シリーズの発表から始まり、「艦上偵察機『彩雲』に見る中島飛行機の開発力」(岡崎昭仁会員)、「淡路島のため池・農業用水開発の歴史と考察—地形、気候との関連—」(南正晴会員)、「技術の系譜から見た新幹線電車」(真保光男会員)、「Newton力学で考える『ひてん-like』月探査船-『ひてん』に始まる『ひてん風』低エネルギー軌道遷移と不変多様体による軌道制御」(田中道彦会員)、「日本における大規模風力発電導入の歴史」(牛山泉会員他1名)、「モンゴル国の社会的変遷に伴う電熱供給の歴史~20世紀以降の変遷について」(出井努会員ほか2名)の8件の発表が行われました。

午後のセッションでは、「伯楽ばさみ小考」(佐々木堯会員)、「臥雲辰致とがう紡に関する文献目録に見る年代的特徴」(天野武弘会員)、「第五回内国勧業博覧

会と内田百閒」(山舘順会員)、「忌みの事実を如何に捉え理解し、後世に伝えるか—いま花岡事件から学ばなければならないこと」(佐藤建吉会員ほか1名)、「伊達地方の養蚕業における『蚕当計』の意義」(星朗会員)、「東京荒川区最後の造船所」(吉田喜一会員)、「工業高校の実習関係科目の動向と課題—1976年~2015年調査の結果を踏まえて」(長谷川雅康会員)、「ブータンと日本の技術交流小史(第6号)Serzhong職業訓練学校の改修支援に係る技術史的な一考察」(白井一会員)の8件が行われ、合計16件でした。

文系と理系それぞれの出自の会員が、混在する当学会は、論文の帰結の仕方も異なり、論理から事実を指摘する文系分野と、最終的事実とその適用を述べることになる理系分野の差異に起因する質疑がなされたことが印象的でした。

全国大会初日の講演発表日程終了後、引き続き懇親会が開催され、その中で参加者から選抜した3人に2分間限定の「わんこそば」に挑戦していただきました。そして、結果は大会開催の支援を行った岩手大学の学生が58杯、牛山会長が43杯、武長会員が36杯となりました。盛岡の名物に参加者一同盛り上がる中でお開きとなりましたが、翌日の見学会を含め、全国大会を無事開催することができまして、実行委員一同大変うれしく思っております。皆様のご協力に感謝しつつ報告とさせていただきます。

2018年1月



日本技術史教育学会2017年度 全国大会(盛岡)見学会報告

天野 武弘(愛知大学 中部地方産業研究所)

見学会は2017年12月10日(日)9時に盛岡駅前集合から始まった。参加者は12名、マイクロバスに乗り込み、まずは盛岡駅から少し南東に行った北上川沿いにある鉦屋町に向かった。

鉦屋町界隈は、歴史を感じさせる町屋が連なるところである。ガイド役の今大会実行委員長でもある小野寺先生から、この街並み保存の取り組みを聞きながらバスで一回りした。

市街地の赤レンガ館が10時開館のため、15分間ほど近くの旧盛岡貯蓄銀行(現盛岡信用金庫本店)前で待機した。この建物は1927年築の鉄筋コンクリート造、一部煉瓦造で、今は盛岡市の保存建造物として指定されている。この建物の前でも再び小野寺先生から盛岡の歴史ばなしをお聞きすることになった。先生の周りにひとかたまりになって聞き入る参加者の姿は、歴史の町盛岡ならではの光景とも感じた。

10時開館と同時に赤レンガ館の愛称で親しまれる岩手銀行赤レンガ館(旧盛岡銀行本店)に入る。1994年に当時現役の銀行建物として最初の国重文に指定された、ひときわ目を惹く建物である。館ガイドから説明のあと自由見学となった。この建物は、小冊子「もりおか歴史的建築物まち並み探訪」によれば、1911年に竣工、東京駅で有名な辰野金吾と盛岡出身の葛西萬司の設計になり、いわゆる「辰野式ルネサンス」様式の一連の作品の一つとある。なお葛西は旧盛岡貯蓄銀行の設計者でもある。吹き抜けとなった現ホールでは、演奏会の準備が行われていて、市民にも開放されている様子を見る。

赤レンガ館の周辺は歴史的建造物が建ち並んでおり、現もりおか啄木・賢治青春館(旧第九十銀行本店、1910年竣工、国重文)もある。時間の関係からここは通り抜けるように見て、南部鉄器の鈴



国重文の赤レンガ館見学

木主善堂に徒歩で向かった。

1616年創業の鈴木主善堂は、繁華街の一角に店を構え、店の奥に1885年建築の鑄造工房を持つ、盛岡では唯一の南部鉄器の工房でもある。

13代当主鈴木忠兵衛氏の案内で工房内に入る。回し型と呼ばれる独特な鑄型を作る道具の説明や、明治期製作もあるという沢山積まれる歴史的な鉄瓶用の各種鑄型も拝見する。その一角には今では全国の鑄物工房で唯一という「足踏み式たたら」(1885年設置のこしき炉の送風用軸)が大正時代まで使われていた姿で残っている。ほぼ原形を留める極めて貴重な軸である。

日曜休みのところ特別な見学となったが、さらに特別に幕末期に忠兵衛が出先の川口で鑄込んだ総長さ七尺(約2.1m)の大砲の実物大の図面や各種古文書類も拝見した。

午後は盛岡から30分ほど北に走った小岩井農場へと向かう。途中から積雪で視界が真っ白な雪国の風景となる。到着後さっそく農場入口にある復元整備された1930年代から約30年間農場で使われたファーマートラクターを見る。

ジンギスカンで昼食の後、前日に講演いただいた小岩井農場資料館館長の野沢宏美氏の案内で農場内施設を巡る。小岩井とは、創業者の小野義真、岩崎弥之助、井上勝の頭文字を取った、1891年設立の西洋式近代農場である。

まずは1934年築の一号牛舎に向かう。国重文指定の木造牛舎には68頭のホルスタインが午前の搾乳を終え、細長い牛舎で休んでいた。その中央にはかつての軌道跡がくっきりと見え、レールも一部に残っている。1936年築の秤量剪蹄室は、牛の体重測定と蹄の爪切りをする珍しい施設である。東京今川橋佐藤製と刻まれた体重測定器に皆の注目が集まっていた。あとは場内一面の積雪もあってバス内からの見学となった。

農場内の計21棟の国重文建物はすべて現役である。もっと内部を見学したいとの思いに駆られながらも、広大な北の地にこれだけの農場を作った先人の苦労と汗の結晶を、また何時かの機会にと思いながら農場をあとにした。

最後にこの見学会を企画、また終始細密かつ味のある説明と案内をいただいた岩手大学の小野寺英輝先生に御礼を申し上げます。

【支部行事開催案内】

日本技術史教育学会 関西支部2017年度総会(通算第15回) 研究発表講演会(通算第11回)開催案内

支部長 渡部 紘一(元 松江高専)
幹事 南 正晴(元 三菱重工)

主催: 日本技術史教育学会, 同 関西支部
協賛: 技術文化史研究会, 日本メカニズムアーツ研究会
日時: 2018年3月4日(日) 9:50~17:30
場所: 大阪産業大学 梅田サテライト キャンパスA教室
〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前 第3
ビル19階(同封の参加申込書裏面に地図記載)
TEL: 06-6442-5522, FAX: 06-6442-5524
http://www.umedu-osu.ne.jp/

《プログラム》

受付開始 9:30より

(講演開始後は会場内後方で随時受付)

開会挨拶 9:50~9:55

関西支部長 渡部 紘一(元 松江高専)

【研究発表講演(1)機械工学史・工学史・科学史】

座長 吉田 勉 (元 日本製鋼所)

(1)9:55~10:15 アーチの起源はメソポタミア ○塩津宣子
(技術文化史研究会)、下間頼一(元 関西大学)

(2)10:15~10:35 ローマの半円形アーチと中国の弓形アーチ
○下間頼一(元 関西大学)、塩津宣子(技術文化史研究会)

(3)10:35~10:55 近世の航海術と位置測定の科学技術
発展史—帆装戦列、縮帆・展帆、六分儀、サムナー
法、子午線弧長、月距法—

田中道彦(元 信州大学)

【休憩】10:55~11:05

【研究発表講演(2)技術史・技術文化史Ⅱ】

座長 田中道彦(元 信州大学)

(4)11:05~11:25 農業用水路掘削方法と鉱山坑道採
掘方法の類似点 ○久間英樹(松江高専)、福岡久
雄(東京電機大学)、森内敦史(山梨県湯之奥金山
博物館)

(5)11:25~11:45 戦前期の朝鮮における船渠の一類
型—仁川港における複門式閘船渠について—

井上敏孝(兵庫教育大学)

(6)11:45~12:05 兵器鉄鋼会社「日本製鋼所」の設
立とその特徴—我が国への英国兵器製造技術移
転と日英同盟— 吉田勉(元 日本製鋼所)

【昼食休憩】12:05~12:55

【特別講演】 座長 渡部紘一(元 松江高専)

12:55~13:55 河南の古代遺跡—殷墟と打虎亭漢墓
を中心として— ○下間頼一(元 関西大学)、○佐々
木堯(関西大学 大学院)

【休憩】13:55~14:00

【研究発表講演(3)技術史・技術文化史Ⅲ】

座長 久間英樹(松江高専)

(7)14:00~14:20 電車駆動用直流電動機の技術進化
真保光男(JR 東日本ビルテック)

(8)14:20~14:40 関西鉄道の研究—第2報 庶務課
長 富森篤について— ○山岡章宏(技藝工房マプ
アン)、坂本勇(元 大阪産業大学)

(9)14:40~15:00 関西鉄道の研究—第3報 加茂駅
の跨線橋支柱について— ○山岡章宏(技藝工房
マップアン)、坂本勇(元 大阪産業大学)

(10)15:00~15:20 東京荒川区におけるリヤカー生産

吉田喜一(元 都立産業技術高専)

(11)15:20~15:40 昭和戦前期における台湾総督府
技術者の福建省調査について

武長玄次郎(木更津高専)

【休憩】15:40~15:50

【研究発表講演(4)技術文化史・技術教育】

座長 山岡章宏(技藝工房マップアン)

(12)15:50~16:10 古代メソアメリカ文明遺跡の実地調
査研究—第1報 先駆的な文明・オルメカ文明—

渡部紘一(元 松江高専)

(13)16:10~16:30 いなみ野台地のため池・用水開発
の歴史と考察—天満大池、加古大池ほか—

南 正晴(元 三菱重工)

(14)16:30~16:50 高等専門学校における工作実習
の歴史と今後のあり方—松江高専を事例として—

本多将和(松江高専)

(15)16:50~17:10 芥川龍之介の張之洞観

山舘順(サレジオ高専)

17:10~17:20 【支部総会】

17:20~17:30 【集合写真撮影】

18:00~20:00 【交流会】

「たちばな」(大阪駅前 ヒルトンプラザ イースト地下2階
Tel:06-4796-5770)

【参加費】

- ・ 研究発表講演会参加登録費:3000円、非会員も同額の参加登録費が必要です。
- ・ 昼食代:1620円(要予約)同ビル地下1階の飲食店街が利用できますが混雑が予想されます。別紙の参加申込書による予約をお勧めします。代金は昼食会場で各自お支払いください。
- ・ 交流会参加費:5000円。

【見学会】

別紙に案内致します。ご覧ください。

【 2018 年度総会・研究発表講演会講演募集 】

2018 年度総会・研究発表講演会を下記のとおり開催いたします。つきましては研究発表を募集いたしますので、ご希望の方は申込期日までに事務局宛お申し込みください。

開催期日:2018 年 6 月 23 日(土), 9:00~

開催場所:上智大学(会場等は次号ニュースレター掲載)
研究発表の申込方法

- ①講演者名(登壇者は会員であること。氏名の前に○印を付ける)及び所属名
- ②主題(タイトル)、副題(サブタイトル)
- ③講演者連絡先(住所・TEL/FAX・メールアドレス)
- ④講演発表時使用機器(パワーポイント等, PC は各自持参)

上記の①から④までを A4 判用紙に記載し、封書で学会事務局宛郵送してください。なお、今回から下記のアドレスに、件名を「2018 年度総会研究発表申込(申込氏名)」とした添付ファイルでの申し込みも受けいたします。登壇講演者は 2018 年度会費を納入済みであること、申込受付後の講演題目変更はできません。

◇研究発表講演申込期限:2018 年 4 月 23 日(月)必着

◇研究発表講演論文原稿提出期限:2018 年 5 月 23 日(水)必着(原稿未着の場合は講演申込辞退とみなし、講演論文集への掲載は致しません)

◇研究発表講演申込先:メール happyou.jseht@gmail.com 宛または封書で〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F (株)プラス・ワン気付 日本技術史教育学会事務局 2018 年度総会実行委員会宛お送りください。

講演希望件数が多い場合は研究発表の時間を調整させていただきます。あらかじめご了承ください。

【 功績賞・業績賞の候補者募集 】

日本技術史教育学会規定により、下記の要項により、功績賞・業績賞を募集いたします。表彰内容、表彰者資格、表彰候補者の推薦につきましては表彰規定のとおりです。

1.募集要領

- 1)A4 判用紙を使用
- 2)表彰の名称(表彰の種類を明記)
- 3)候補者の所属、部署、氏名(自薦は連絡先を追加)

4)推薦理由(400 字程度)

5)推薦者の所属、部署、氏名、連絡先(自薦は不要)

6)送付先:学会事務局宛、「表彰応募」と封筒に朱記して郵送

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F (株)プラス・ワン気付 日本技術史教育学会事務局

2.募集期限 2018 年 4 月 23 日(月)消印有効(厳守)

3.問合せ先 学会事務局宛、FAX でお願います。
FAX:03-3835-2494

4.贈賞、表彰時期 2018 年度総会

5.その他 表彰規定については学会誌をご参照ください。学会ホームページにも掲載されています。

【 理事会議事録 】

◆第149回(通算192回)理事会

日時:2017年11月25日(土),15:00~18:00,場所:東京大学(本郷キャンパス)工学部6号館1階175号室,出席者:牛山・堤・鈴木・武長・田中(明)・渡部・山舘・穂積,議題 0) 前回(第148回)議事録案承認,1)各部門報告<総務(ホームページ更新確認、会員動向、会費納入状況)、編集(学会誌、ニュースレター編集関連)、企画(2017年度全国大会開催、2018年度総会開催)、関西支部(2017年度関西支部総会開催)>,2)学会財政について,3)その他,4)次回理事会:2018年2月開催予定

【 2018年度会費納入のお願い 】

2018年度会費の納入を、同封した振込用紙によりお願い致します。本学会の運営は会員の皆様の会費でおこなわれています。2017年度までの会費未納の方も、早急な会費の完納にご協力ください。

【 編集後記 】

新年あけましておめでとうございます。東京でも48年ぶりに-4℃を観測する等寒波と大雪の日本列島、いつまで寒さが続くのでしょうか。さて、2018年度総会・研究発表講演会は東京の上智大学で開催いたします。皆様のご講演申込みとご参加を実行委員一同お待ちしております。また会員の皆様へお伝えする事がございましたら編集委員(下記メールアドレス)までご連絡いただきますようお願い致します。

(穂積洋一)

日本技術史教育学会ニュースレター 第113号
2018年1月25日 印刷
2018年1月31日 発行



技 術 史 教 育

Education for History of Technology

発行者
編集

日本技術史教育学会 会長 牛山 泉
日本技術史教育学会
(株) プラス・ワン気付 日本技術史教育学会 事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F
TEL/FAX: 03-3835-2494
E-Mail: jseht@nifty.com